

令和8年第2回定例会

一般質問通告書

流山市議会

令和8年第2回定例会一般質問通告順

日付	順番	議員名	会派名	頁
6 月 9 日	1	川本大岳	流政会	1～3
	2	青野直	流政会	4
	3	小沢えみり	流政会	5～6
	4	矢口輝美		7
	5	笠原久恵	流政会	8～9
	6	森田洋一		10
6 月 10 日	7	渡辺仁二	流政会	11～12
	8	坂巻儀一	流政会	13～14
	9	近藤みほ	流政会	15
	10	植田和子	日本共産党	16
	11	高橋あきら	日本共産党	17
6 月 11 日	12	乾えり	日本共産党	18
	13	おだぎりたかし	日本共産党	19～20
	14	西尾段	流山みらい	21
	15	うた桜子	流山みらい	22～23
	16	藤井俊行	流山みらい	24～25
6 月 12 日	17	戸辺滋	公明党	26～27
	18	鈴木ゆうすけ		28～29
	19	楠山栄子		30～31
	20	桑畑伴子	公明党	32
	21	清水大		33

質問事項	要 旨
<p>1 住宅宿泊事業(民泊)について</p>	<p>(1) 住宅宿泊事業(民泊)は、宿泊需要の受け皿として観光振興への波及が期待される一方、住宅地においては騒音、ごみ、駐車違反、犯罪リスク等、住環境への影響が懸念される。また、民泊は県への届出により事業が開始される制度であるが、一方で、地区計画等の確認、ごみ処理、住民相談等においては、市にも実務上の関与が求められる。そこで、市としての基本的な考え方、届出状況の把握体制、相談対応のあり方等について整理し、必要な対策を講じるべきと考えることから、以下について問う。</p> <p>ア 民泊は、どのような場所や建物で営業することができるのか。用途地域、地区計画、共同住宅における管理規約等との関係を含め、市としてどのように整理しているか。</p> <p>イ 市内における民泊の届出状況について、市はどのように把握しているのか。また、千葉県との情報共有の仕組みや、市内の共有はどのようにになっているか。</p> <p>ウ 民泊に関する近隣住民からの相談や苦情を受けた場合、市の相談体制はどのようにになっているか。また、無届営業の疑いがある場合や、騒音、ごみ、駐車違反等の問題が生じた場合、県や事業者等とどのように連携して対応するのか。</p> <p>エ 観光振興の観点から、市として民泊を宿泊需要の受け皿としてどのように位置付けているか。適正な運営と住環境の保全を前提に、観光振興への波及や市内周遊につなげる活用策を検討する考えはあるか。</p>

<p>2 路上喫煙防止対策について</p>	<p>(1) 令和8年第1回定例会では、予算審査特別委員会において「喫煙所の設置については民間事業者との協議を進めるとともに、路上喫煙等指導員の必要な人員を早急に確保して指導や啓発に努め、路上喫煙をなくすための持続可能な体制を構築されたい。」が議会全体の指摘・要望事項として合意された。これについて、以下を問う。</p> <p>ア 民間事業者との協議について、どのような事業者と協議したのか。また、喫煙所設置に関する提案や協議の内容はどのようなものであったか。</p> <p>イ 路上喫煙等指導員の人員確保の状況はどうか。</p>
<p>3 南流山駅周辺のまちづくりについて</p>	<p>(1) 南流山駅前広場改修基本計画が令和8年5月20日に策定され、北口・南口それぞれの将来イメージを示すパースも作成された。</p> <p>基本計画において大きな方向性が示されたことを踏まえ、今後の設計段階において慎重な検討を要することから、以下を問う。</p> <p>ア 駅前広場の将来像の作成に際して特に工夫した点や重視した点は何か。あわせて、基本計画の大きなポイントである北口・南口それぞれの整備イメージについて、市民や駅利用者にとどのような点を特に伝えたいと考えているのか。</p> <p>イ 今後の基本設計において、市民の意見をどのように収集し、どのように実施設計へ反映させていく予定か。また、基本計画の段階で「今後の基本設計で検討」とした事項のうち、特に慎重な検討を要すると認識している事項は何か。</p>

ウ 意見募集では周知不足を指摘する声も見受けられたが、今後の基本設計段階において、市民や駅利用者に対する周知をどのように強化していく考えか。また、基本計画や設計内容について、「何がどう変わるのか」をより分かりやすく伝えるため、どのような情報発信を行っていく予定か。

エ 南口の送迎車両について、市は一時停車スペースを設ける考え方を示しているが、車両台数、停車場所、待機のあり方などの面で、現状と比べて利便性が低下しないよう、今後どのように検討していくのか。

オ 基本計画では、駅前広場の整備を起点として、周辺民有地の更新誘導、沿道空間の形成、回遊性の向上など、周辺市街地との連携による魅力向上を目指すとしているが、これを具体的にどのように進めていく考えか。

カ 基本計画では、持続的なにぎわいの創出に向けて、公民連携による事業手法や管理運営の可能性を検討するとしているが、管理形態について現時点でどのような方向性を持ち、今後どのような視点で検討を進めていくのか。

質問事項	要 旨
<p>1 令和8年度版流山市総合計画実施計画における人口の状況について</p>	<p>(1) 流山市総合計画実施計画における人口状況では、総人口のほか、年齢3区分別、社会動態、自然動態などについて令和7年度までの統計がそれぞれ掲載されているが、総人口について、令和10年度の見通しを問う。</p>
<p>2 令和8年度版流山市総合計画実施計画における財政の見通しについて</p>	<p>(1) 流山市総合計画実施計画における一般会計、基金残高、市債残高の見通しについて、令和10年度までの3年間でどのように推移されるのか問う。</p>
<p>3 流山本町の行政課題について</p>	<p>(1) グリーンスローモビリティの試験走行の結果と今後の取組姿勢について問う。</p> <p>(2) 流山小学校南門の整備について問う。</p>

質問事項	要 旨
<p>1 部活動の地域展開について</p>	<p>(1) 部活動の地域展開について、教育委員会から、令和8年度は地域クラブとして土日の部活動に専門的な指導者を派遣し、令和9年度からは平日の部活動にも地域クラブとして専門的な指導者を導入する方向性が示されている。部活動は単なる活動ではなく、こどもたちの人間形成や学校生活の充実にも大きく関わる教育活動の一つであり、保護者の中にも、「学校内だから安心して任せられていた」という声や、「これまで通り活動できるのか」「費用負担はどうなるのか」「誰が責任を持つのか」といった不安の声もある。そのため、指導者の確保だけではなく、大会参加の在り方、保護者負担、運営主体と教育委員会との役割分担、活動場所や学校備品の使用など、制度を整理していく必要があると考えることから、以下を問う。</p> <p>ア 部活動の地域展開の今後の方針についてどのように考えているのか。</p> <p>イ 教職員を対象に実施したアンケートは、どのような内容か。また、兼職兼業についてはどのようになるのか。</p> <p>ウ 地域クラブへ移行した場合、これまで学校部活動として出場していた大会等への参加はどのようになるのか。また、クラブチームとしての参加に伴う課題をどのように認識しているのか。</p> <p>エ 地域展開に伴い保護者の費用負担が発生することも想定されるが、その方向性と非課税世帯への支援についてどのように考えているのか。</p> <p>オ 一般社団法人ながれやまフォレストジュニアと教育委員会との役割分担について、現在の状況と将来の展開はどのようになっていくのか。</p> <p>カ 地域クラブ活動における活動場所について、学校施設をどのように活用していく考えか。また、用具など学校備品の使用についてはどのように整理していくのか。</p>

<p>2 学校教育の備品化による保護者負担軽減について</p>	<p>(1) 近年、全国の自治体では、算数セットや裁縫セット、彫刻刀等について、学校備品として共有化し、保護者負担の軽減を図る取組が進み始めている。文部科学省が令和7年6月25日付で発出した通知においても、算数セット等を学校備品として整備している事例を紹介している。算数セットについては、購入費用の負担に加え、おはじき等への細かな記名作業が必要であり、子育て世帯にとって大きな負担となっていることも多い。また、使用期間が比較的短い一方で、卒業後は家庭内で保管・廃棄されるケースも多く、SDGsや資源循環の観点からも見直しを求める声がある。東京都北区は一部で学校備品化を進め、つくば市では共有可能な教材の整理を進め、また、新宿区や足立区では算数セットや彫刻刀を備品化している事例も確認されている。流山市においても、子育て世帯の増加が続く中、学校教材のあり方を見直す必要があると考え、以下を問う。</p> <p>ア 現在、流山市立小学校において、算数セット等の補助教材について、学校ごとに購入品目や保護者負担額に差異はあるのか伺う。</p> <p>イ 算数セットについて、保護者から寄せられている声はどのようなものか。</p> <p>ウ 全国では、算数セット、彫刻刀セット等を学校備品化する自治体も出てきているが、流山市として、共有可能な教材の整理や、学校備品化について検討する考えはあるのか。</p> <p>エ 特に算数セットについては、全てを一律に個人購入とするのではなく、学校備品としての活用や、一部共有化など、保護者負担軽減に加えてSDGsに向けた、検討をすべきと考えるが見解を伺う。</p>
---------------------------------	--

質問事項	要 旨
<p>1 資源循環型社会形成と廃棄物処理行政を通じたまちづくりについて</p>	<p>(1) 本市環境基本計画における資源循環型社会形成の考え方とはどのようなものか。</p> <p>(2) ごみ減量及び資源循環施策について、これまでの取組と今後の計画とはどのようなものか。</p> <p>(3) クリーンセンターにおける環境学習について</p> <p>(4) 持続可能な廃棄物処理行政と資源循環を通じた将来のまちづくりについて</p>
<p>2 災害時における地域生活継続のための支援体制について</p>	<p>(1) 物資の充実など避難所生活への取組は行われているのに対し、在宅避難への取組はどのようなものか。</p> <p>(2) 災害時における地域機能や住民生活をどのように維持していくのかという地域BCPの視点を踏まえた災害対応が求められている。それに向けた取組として健康福祉部では避難行動要支援者の個別避難計画作成の取組が進められているが、本市における現状と課題認識はどうか。</p> <p>(3) 在宅避難者に対する支援の中でも特に福祉的支援の重要性が高まっているが、今後の体制整備についてどのように考えているのか。</p> <p>(4) 多様な支援を想定した多様性対応型の防災訓練について、本市での取組状況はどうか。</p> <p>(5) 災害時においても地域生活を継続するためには、行政のみならず、自治会、自主防災組織、福祉関係者、医療関係者、当事者団体、市民活動団体等と連携した、地域における共助・協働体制の構築への取組が必要と考えるが本市ではどうか。</p>
<p>3 DX推進リーダー制度と組織横断による業務改善について</p>	<p>(1) 本市が導入したDX推進リーダー制度におけるこれまでの取組と成果について問う。</p> <p>(2) DX推進には、職員一人ひとりが必要な情報やツールへアクセスできる環境整備が必要であるが、その整備状況と推進体制についての課題認識について問う。</p> <p>(3) DX推進リーダー制度のさらなる展開にあたっては、一部職員の負担や個人のスキルに依存するのではなく、組織横断による学び合いや業務改善につなげていく視点が必要だと思うがどうか。</p> <p>(4) 令和7年度にスタートした流山市DX推進計画の進捗と今後の展望について問う。</p>

質問事項	要 旨
<p>1 都市計画道路3・4・11号野々下思井線について</p>	<p>(1) 都市計画道路整備を行う区間と都市計画道路に限らない整備の区間に分けた理由は何か。</p> <p>(2) 令和8年度は道路予備設計で道路線形案の作成と説明会の開催を予定しているが、進捗はどうか。</p> <p>(3) 整備による交通量の変化をどのように予測しているのか。</p> <p>(4) 通学児童生徒及び高齢者の安全確保についての考えはどうか。</p>
<p>2 八木南団地地区乗合タクシー実証実験について</p>	<p>(1) 八木南団地地区乗合タクシー実証実験の目的と背景について問う。</p> <p>ア 八木南団地地区において乗合タクシーの実証実験を実施する目的は何か。</p> <p>イ 高齢者の移動支援など実証実験の実施に至った地域課題をどのように捉えているのか。</p> <p>(2) 実証実験の内容について問う。</p> <p>ア 現在の利用希望者の申請は何名となったのか。また、申請者のうち自治会員の割合はどうか。今後申請したい方々についての対応はどのように考えているのか。</p> <p>イ 運行時刻を午前中6便とした理由は何か。</p> <p>ウ 運行日を毎週火曜日に限定した理由は何か。</p> <p>エ 片道500円とした根拠は何か。</p> <p>(3) 既存公共交通機関との役割分担及び連携について問う。</p> <p>(4) 安全対策及び運行体制について問う。</p> <p>(5) 実証実験後の本格運行の判断主体と手続きについて問う。</p>

<p>3 運動公園周辺地区特定土地区画整理事業について</p>	<p>(1) 令和8年第1回定例会の予算審査特別委員会総括質疑において、市長から、「県に対して進捗の見通しの明確化や体制の確保などについて要望を行い、地権者の不安の軽減につながるよう取り組んでいく」旨の答弁があったが、市は、県に対してどのような働きかけをしているのか問う。</p>
<p>4 前ヶ崎411地先の交差点の信号設置について</p>	<p>(1) 前ヶ崎411地先の交差点の信号機設置については、警察からどのような説明を受けているのか問う。</p>

質問事項	要 旨
<p>1 介護保険制度の諸課題について</p>	<p>(1) 介護保険制度が公的な支援としてありがたい制度と実感できるのは、介護保険によるサービスを受けた時である。しかし、申請手続きが煩雑である、手続きからサービス開始までの期間が長いといった課題が指摘されている。手続きは簡素化してほしい、困っている人ならば誰でも申請しやすくしてほしい、審査の前に最低限のサービスを受けて、まずは負担を今すぐにでも軽くしたいといった声に、行政はまず耳を傾けるべきと思うがどうか。</p> <p>(2) 介護保険のサービスを利用開始した場合、自分自身の困りごとは何で、それをどうすれば解決に導けるのかよくわからないことも多い。担当窓口職員は、共感の心をもってひとりひとりの申請者と接することが大切であり、共感のできる人材を窓口には配置すべきと思うがどうか。</p>
<p>2 外国人観光客誘致の諸課題について</p>	<p>(1) 日本を訪れるファミリー層を本市に誘致するには、東京からのアクセスが近い、移動しなくても観光を満喫できる、こども向けのコンテンツがある、すぐに食事できる場所があるといったことを訴求して商品開発研究をし、海外に宣伝していく必要があると思うがどうか。</p> <p>(2) 日本の文化に触れる体験モノを希望する方をガイドするには、電話1本で簡単に仮予約ができる、詳細の外国語の資料があり依頼者に送るだけでよいなど、行政が簡単な仕組みを構築していくことも重要であると思うがどうか。</p> <p>(3) 「日本は初めてだからまずは東京」といった声が多い。本市にある日本の文化である、着物・みりん・神社仏閣・国登録の有形文化財・日本食など既存の観光資源を組み合わせ、流山に行けばこれがあるといった売り方を模索していく段階にきていると思うがどうか。</p>

質問事項	要 旨
<p>1 流山本町のツーリズム施策について</p>	<p>(1) 流山駅前通りの補修及び道路美装化、そして万上通りの道路美装化が完了した。今後の舗装計画があるのか。あれば具体的な計画はどうか。</p> <p>(2) 令和8年第1回定例会予算審査特別委員会の市長への総括質疑において、昨今の物価高騰の影響も考え、流山本町・利根運河ツーリズム推進事業補助金の補助額引き上げを行う答弁があった。制度設計はどのようなものか。また、開始時期はいつか。</p> <p>(3) 資材高騰などで花火大会の開催を中止する自治体が多くなっている。流山花火大会の10月開催は可能なのか。</p> <p>(4) 流山本町におけるツーリズム施策を活かしたまちづくりについて、令和8年度の実組は、具体的にどのようなことを予定しているのか。</p>
<p>2 市民に寄り添った暑さ対策について</p>	<p>(1) 近年の猛暑を踏まえ、本市は熱中症を「災害級リスク」としてどのように認識しているか。</p> <p>ア 本市における熱中症搬送者数及び発生傾向をどのように分析しているか。高齢者や子どもなど熱中症弱者への対策をどのように進めているか。</p> <p>イ クーリングシェルターと涼み処の設置状況及び周知方法について問う。公共施設に加え、民間事業者と連携した「涼み処」の拡充について、市の考えを伺う。また、自治会へ行ったアンケートの結果はどうか。</p> <p>ウ 教育課程や部活動におけるWBGT（暑さ指数）の運用基準及び熱中症対策と、通学路や公園等における暑熱対策の現状と今後の取組について伺う。</p>

	<p>エ 流山本町地区を含めたウォークブル施策において、暑熱環境対策をどのように位置付けているか。更に、街路樹、ミスト、遮熱舗装等を活用した歩行空間の暑熱対策について、市の考えを伺う。</p> <p>オ 体育館空調整備を含む避難所の暑熱対策について、現在の整備状況と今後の方針を伺う。</p> <p>カ 熱中症対策について、保健・教育・防災・まちづくり部門を横断した推進体制を構築する考えはあるか。</p> <p>(2) 地域行事や屋外イベントにおける熱中症リスクが高まっていることから、自治会、商店会、市民団体等が実施する祭りやイベントに対する熱中症対策支援の現状として、ミスト発生装置や大型送風機等の熱中症対策機材を市が購入し、自治会や地域団体へ貸し出す制度を創設してはどうか。</p>
--	---

質問事項	要 旨
<p>1 中東情勢をはじめとする国際的緊張による影響への対応について</p>	<p>(1) 中東情勢をはじめとする国際的緊張により懸念されるガソリン価格高騰、電気・ガス料金上昇、食料品価格上昇などの各種価格高騰について、以下問う。</p> <p>ア 市民生活へ想定される影響として、生活困窮相談の増加や日用品の不足などが挙げられるが以下について問う。</p> <p>(ア) 生活困窮相談件数の変化を把握しているか。</p> <p>(イ) エネルギー価格高騰時の生活困窮者への支援体制をどのように考えているか。</p> <p>(ウ) ナフサ不足への懸念などから一部小売店で指定ごみ袋の在庫が不足したことに伴い、6月末までの期間限定で代替品の使用が認められているが、今後の状況によっては期間延長も考えているのか。</p> <p>イ 学校教育へ想定される影響として給食の配送コストの上昇、食材費高騰、包装材料不足などが懸念されるが以下について問う。</p> <p>(ア) 食材費高騰による学校給食への影響を把握しているか。</p> <p>(イ) 配送コスト上昇や物流停滞による給食提供への影響や非常時献立対応を想定しているか。</p> <p>(ウ) 地場農産物の活用拡大など、供給不安発生時を見据えた給食体制強化についての考えはあるか。</p> <p>(エ) 学校施設における省エネルギー化や電力使用抑制への取組状況はどうか。</p>

	<p>ウ 福祉・医療への影響について</p> <p>(ア) 福祉施設及び高齢者施設等における光熱費高騰の影響を把握しているか。</p> <p>(イ) 医療・介護資材等の供給不安発生時における本市の対応体制はどうか。</p> <p>(ウ) 今後、福祉・医療分野における供給不安対策について研究・検討する考えはあるか。</p> <p>エ 建設・都市整備への影響について</p> <p>(ア) 舗装材、塗料、建設資材等の価格高騰による公共工事への影響を把握しているか。</p> <p>(イ) 資材不足や価格変動による契約変更及び工期延長リスクへの対応をどのように考えているか。</p> <p>(ウ) 学校増築・改築への影響を把握しているか。</p> <p>(エ) 区画整理事業への影響を把握しているか。</p> <p>オ 防災危機管理部門への影響について</p> <p>(ア) 燃料不足や物流停滞発生時における本市防災体制への影響をどのように想定しているか。</p> <p>(イ) 避難所における非常用電源及び燃料確保体制の現状はどうか。</p> <p>(ウ) 災害備蓄品の価格高騰や供給不安への対応状況はどうか。</p> <p>(エ) 民間物流事業者や燃料供給事業者等との連携・協定状況はどうか。</p>
--	--

質問事項	要 旨
<p>1 学校給食費支援対象者の食物アレルギー等差額給付制度導入に向けて</p>	<p>(1) 食物アレルギー児への給食費負担軽減について、以下3点を問う。</p> <p>ア 給食を一部または全部喫食できない児童生徒数と、アレルギーにより国の負担軽減策の恩恵を受けられない現状への市の認識について</p> <p>イ 差額給付制度創設の課題と、学校事務の負担を抑えた実現手法について</p> <p>ウ 千葉市等の差額給付制度の事例と、公会計化による一元管理体制との親和性について</p>
<p>2 生物多様性モニタリング調査の継続と活用に向けて</p>	<p>(1) 生物多様性戦略を根拠づけるために大切なモニタリング調査の継続と活用に向けて、以下3点を問う。</p> <p>ア 現在のモニタリング調査は市民のボランティアによって行われているが、高いスキルが必要な調査となっている。調査員のなり手不足に対する課題をどのように分析しているか。</p> <p>イ 蓄積データに対し、これまでどのような分析を行ってきたのか。また市民会議でも要望のある、専門家による分析・助言体制の整備について問う。</p> <p>ウ 生物多様性の意義を普及し、住民が楽しみながら参加できるような事業の工夫の必要性について</p>
<p>3 人とのつながりを基盤とした高齢者デジタル支援の推進について</p>	<p>(1) 高齢者のデジタル活用支援には「頼れる人・場所・機会」の不足解消が有効である。以下3点を問う。</p> <p>ア 高齢者にデジタル化のメリットを周知する必要性について</p> <p>イ 地域の高齢者の居場所へ出向き、デジタル利用の困りごとを直接聞き取ったり操作法をサポートしたりする「アウトリーチ型支援」の導入について</p> <p>ウ 住民による「デジタル推進サポーター」を育成・派遣し、教え合う仕組みの創設について</p>

質問事項	要 旨
1 熱中症対策について	<p>(1) 気候変動適応法に基づき、市が指定する指定暑熱避難施設「クーリングシェルター」の更なる指定拡大及び一時的に暑さをしのぐための「涼み処」の拡充等について問う。</p> <p>(2) 学校の部活動における熱中症対策について問う。</p>
2 障害者施策について	<p>(1) 第6次流山市障害者計画における「障害者の生きがい向上」に関わる施策の到達点について問う。</p> <p>(2) 「障害者のための料理教室」廃止の経緯と、今後の障害者の生きがい・居場所確保に向けた市の対応について問う。</p>
3 利根運河エコパーク事業について	<p>(1) 東武野田線から西側にある浮き橋のように、東側にも同様の浮き橋を作る必要があるのではないか。</p> <p>(2) 飛び石及びアクセス階段における危険性の認識と利用制限等の安全対策について問う。</p>

質問事項	要 旨
1 平和施策について	<p>(1) 2026年5月15日、衆議院安全保障委員会において「予備自衛官等の職務の円滑な遂行を図るための国家公務員及び地方公務員の兼業の特例に関する法律案」が可決されたが、市長の見解を問う。</p> <p>(2) 中東情勢の影響が市民生活にも及んでいる。アメリカとイスラエルが始めたイラン戦争について、早期終結と国際秩序の回復を求める世論を高めるため、地方自治体からも意見をあげるべきと考えるが市長の見解を問う。</p>
2 教育行政の充実について	<p>(1) 文部科学省が通知した「学校における補助教材及び学用品等に係る保護者等の負担軽減について(2025年6月25日)」にあるように教材の備品化など工夫し、更に市として教材費、制服代、修学旅行費などを公費負担として、義務教育の完全無償化をすすめるべきと考えるがどうか。</p> <p>(2) 2026年4月から、国の制度として公立小学校の給食費負担一部無償化が始まり、多くの自治体では独自の持ち出しをおこない給食費完全無償化が実施されている。本市でも更なる負担軽減をすべきと考えるがどうか。</p> <p>(3) 学校の部活動の「地域移行(地域展開)」に伴う、指導者確保や活動場所、保護者負担、安全な交通手段、受益者負担の資金管理等について問う。</p>
3 東部地域のまちづくりについて	<p>(1) 流山市街づくり委員会に諮られている物流倉庫(前ヶ崎字川村台722番7地他)の建設計画について問う。</p> <p>(2) 向小金1丁目の地元自治会から要望が出されている管理が行き届いていない空き家の対策について問う。</p>

質問事項	要 旨
1 市長の政治姿勢について	<p>(1) 高市首相は4月12日の自民党大会で、改憲について「発議に何とかめどが立ったといえる状態で来年の党大会を迎えたい」と言及するなど、憲法9条を中心とした改憲に前のめりの姿勢を示しているが、憲法尊重擁護義務を負う首長として、また平和都市宣言をしている本市としてどう捉えているのか市長の見解を問う。</p>
2 ごみ処理行政について	<p>(1) 中東情勢の影響による指定ごみ袋の取扱いについて問う。</p>
3 市営住宅について	<p>(1) 1月17日、市営住宅柳田団地において火災が発生したが、その後の対応はどのようなものだったか。また、緊急時における市営住宅の利用はどのようになっているか。</p> <p>(2) 市営住宅入居者の募集・応募状況について問う。</p>
4 南部地域のまちづくりについて	<p>(1) 飛地山におけるデータセンター計画に関する事例をどのように教訓化し、今後に生かすのか問う。</p> <p>(2) 三輪野山一丁目125地先、三郷流山橋有料道路下の交通安全対策について問う。</p> <p>(3) 宮園調整池近くの市道82037号線の交通安全対策について問う。</p>

質問事項	要 旨
<p>1 中部地域のまちづくりについて</p>	<p>(1) 都市軸道路について、大畔T字路や県道豊四季停車場高田原線との交差点等、右折信号機を設置すべきだがどうか。また大畔T字路における児童生徒の安全な横断を確保する取り組みはどこまで進んでいるのか。</p> <p>(2) 流山おおたかの森駅周辺の渋滞について、2025年第3回定例会決算審査特別委員会で市長は「週末を中心に渋滞していることは認識しています。特におおたかの森西交差点などについては、交通処理対策が必要と考えています」と答弁した。都市計画道路東深井市野谷線流山おおたかの森S・C駐車場出口前の中央分離帯を削り、右折レーンの延長を図る等対策を具体化すべきだがどうか。</p> <p>(3) 初石駅西側旧駅舎等の跡地利用と西口広場の今後について</p>
<p>2 地域経済の振興策について</p>	<p>(1) 中東情勢の影響は地域経済でさまざま表れているのではないかと、市として実態把握を進めるとともに、相談窓口の設置や本市独自の支援策を検討すべきと考えるがどうか。</p> <p>(2) 公共事業への影響について問う。</p> <p>ア 長引く物価高騰に加え、中東情勢の影響により資材の不足や価格高騰などおきていないのか。また新年度予算の執行にあたり、緊急修繕や改修等の確実な実施のための取り組みや工事請負契約第26条（契約スライド条項）を活かした対応が必要ではないか。</p> <p>イ 多額の経費と資材を投入する通称「いぎきロード」や都市計画道路野々下思井線道路改良工事は、詳細設計を実施した時期と現在で大きな金額差が生じている恐れもあり、いったん立ち止まることも「1円まで活かすこと」と捉えているがどうか。</p> <p>ウ 2026年度からスタートする建設現場の「夏季休工」制度について、本市でも積極的な対応が必要ではないか。またそれに伴い、休工期間の現場作業員の手当確保や、休工期間を踏まえた工事期間の設定等、現場や受注事業者に支障のない対応が必要ではないか。</p>

<p>3 高齢者の移動支援の強化・充実について</p>	<p>(1) 免許返納等、高齢者の移動における自由度低下は、人との接点や社会参加の機会喪失を招き、孤立や抑うつ状態等、身体機能や認知機能の低下により、社会保障費の増大にもつながりかねない。高齢者の移動支援の在り方について組織横断的に施策を深め、練り直す必要があるのではないか。</p> <p>(2) 高齢者免許返納一時金制度を更に充実させるため、2025年6月国土交通省「高齢者免許返納促進事業活用の手引き」に基づき具体化を図る必要があるのではないかと。</p>
-----------------------------	---

質問事項	要 旨
<p>1 部活動の地域展開について</p>	<p>(1) 部活動の地域展開について問う。</p> <p>ア 令和8年2月頃に調査された「中学生の受け入れ可能な地域スポーツ団体」と「部活動の地域展開」は同じ扱いで考えられているのか、それとも全く別の団体、組織と考えられているのか。</p> <p>イ 令和9年以降の大会運営等については積極的にクラブで出場していくとの説明があったが、小中学校体育連盟の規約が整備されることが前提となっている。現状の見通しはどうか。</p> <p>(2) 部活動の顧問になりたくて教員になった方も少なくない。今後教員が部活動の顧問をやれないことで指導者が市外の学校や高校等に流出する可能性が考えられるが、市ではどのようにとらえているのか。</p>
<p>2 上水道事業について</p>	<p>(1) 本市の下水道使用料については、来年度からの改定を目指し現在パブリックコメント手続きを行っているが、上水道料金についても将来的には見直しをする必要があると感じている。使用料の値上げは市民から歓迎されないことではあるが、北千葉浄水場から購入している水の単価が見直される可能性もあり、水道事業を健全経営し続けるためにはいずれかのタイミングで値上げの検討も必要と考えるがどうか。</p>
<p>3 ぐりーんバス美田駒木台ルートについて</p>	<p>(1) 令和8年5月に美田駒木台ルート沿線の自治会長や地域の超党派の議員で組織する「ぐりーんバス協議会」から停留所新設の要望書が市に対して提出された。この組織は、ルートの収支率が50%未満だった時期に組織され、利用促進のために市内外の組織や施設に積極的に働きかけをして収支率向上に貢献した組織である。この要望書は、更に利用者増加のためにニーズの多い場所に停留所新設を求める内容である。今後どのように検討していくのか。</p>

質問事項	要 旨
<p>1 流山セントラルパーク駅周辺のまちづくりと流山本町地域との連携・観光推進について</p>	<p>(1) 現在、流山セントラルパーク駅周辺は目覚ましい発展を遂げているが、外資系ファーストフード店や外資系コーヒーチェーンなどが並び始めている。利便性が高まる一方で、どこの街にもある画一的な景観となり、食の選択肢が偏ることへの懸念や、地域の温かみを感じられる個人店が育たないことを惜しむ声が寄せられている。そこで以下を問う。</p> <p>ア 大手フランチャイズ等しか参入できないような地価及び家賃の高騰が、個人飲食店の新規参入や営業継続の大きな壁となっている現状に対し、単なる店舗補助にとどまらない、駅周辺まちづくりにおける課題認識はどうか。</p> <p>イ 柏の葉キャンパス駅における「かけだし横丁」等の先進事例を参考に、市が鉄道事業者との協議の機会を設け連携して、高架下空きスペース等の利活用による「センパ横丁（仮称）」のような小規模飲食店街の導入に向けた調査や研究を進めてはどうか。</p> <p>(2) 新興エリアの住民に対して、歴史ある流山本町の伝統や名店の魅力そのものがまだ十分に認知されていないように見受けられる。そこで以下を問う。</p> <p>ア 市外からの転入者等への認知度向上を図るため、運河駅自由通路における利根運河ツーリズム紹介事例などを参考に、流山セントラルパーク駅構内のスペースを有効活用し、本町エリアの歴史、名店、つるし雛や和雑貨等の和の技術を紹介・発信・出店できる流山本町のサテライト機能を鉄道事業者等と連携して設けてはどうか。また、生涯学習センターにも同様な機能を設けてはどうか。</p> <p>イ 白みりんミュージアムと近藤勇陣屋跡を連動させ、流山本町全体を着物や幕末イメージのコスプレで散策できる体験型観光エリアとして大胆に推進できると考える。本市と姉妹都市関係にある相馬市の伝統的な野馬追の甲冑の試着体験やフォトスポット創出、和装レンタル、地元店との連携など、インバウンドの獲得や転入者を呼び込むための体験価値の強化について、市の見解を問う。</p> <p>ウ 高齢者や子育て世代を含めた多様な来訪者が、流山セントラルパーク駅前から流山本町へ円滑に移動できるよう、現在極めて運行本数が限られている既存の路線バス路線のダイヤ調整や、近年導入が進むシェアサイクルの駐輪スペースを駅前等に戦略的に確保するなど、実効性のあるアクセス支援策・回遊性向上策を検討できないか。</p>

<p>2 流山市生涯学習センター内スペースの有効活用と福祉的転換について</p>	<p>(1) 生涯学習センター内の、かつて地域の交流や憩いの拠点でもあった喫茶スペースが、現在は冷凍食品等の自動販売機が置かれた機能限定的な無人販売・自習スペースとなっている。昼時はコンビニ等からの持ち込み飲食、夕方以降や週末は自習利用など、一定の利用者はあるものの、かつてのような温かい食事が提供される賑わいや多世代交流の場としての温もりは失われている。この現状について以下を問う。</p> <p>ア ランチサービスが撤退した経緯は何か。</p> <p>イ 設置されている自動販売機の利用実績とその評価はどうか。</p> <p>ウ 現在は使われていない厨房を今後どのように有効活用していくのか。</p> <p>エ 指定管理者による運営施設であっても、設置者である市の方針として、家賃等の負担を大幅に軽減できる仕組み（公有財産減免措置等）を適用・仕様化することは可能と考えるが、市内の障害者作業所等の参入ハードルを下げる工夫を講じた上で、温かい食事を提供する福祉ランチカフェの導入に向けて改めて働きかけてはどうか。</p>
<p>3 外国人にも分かりやすいごみ出しルールの徹底について</p>	<p>(1) 近年日本国内では、外国籍住民の増加が地域社会の関心事となっており、ごみ出しルールが守られないといった苦情や懸念の声がある。しかし、日本のごみ出しルールは世界的に見ても極めて細分化されており、ごみ出しを巡るトラブルが地域コミュニティの維持や近隣関係に直結するほど重要視されているという文化的背景を、十分に知らされていない外国籍住民も少なくない。ルールを「守らない」のではなく、日本の複雑なルールを「理解するための情報が十分に届いていない」のではないかという視点に立ち、以下を問う。</p> <p>ア 現時点における本市の外国人国籍別人口の上位の実態、及びその推移について伺う。</p> <p>イ 本市が提供している外国人向けのごみ出し情報の対応言語は、現在の市内在住外国人の言語ニーズと適切に対応しているか伺う。</p> <p>ウ 外国人が自力で情報へアクセスすることの難しさや、自治会等の地域現場においてどの言語のガイドブックを渡せば良いか分からないといった、情報伝達における市の課題認識について伺う。</p> <p>エ 本市の多言語による地域別収集曜日一覧にはイラストがなく、外国人にとって理解が難しい。近隣市の事例を参考に、該当住民の居住地域の曜日と、ごみの定義や分別ルールが視覚的に分かるイラストが1枚に掲載された多言語シートにするなど、情報の簡素化・最適化を図ってはどうか。</p>

質問事項	要 旨
<p>1 資材高騰・不足への対応について</p>	<p>(1) イスラエルを中心とする中東情勢等の緊迫化により、人件費や資材費の高騰が続いているが、本市への影響について以下2点を問う。</p> <p>ア 中東情勢の緊迫化による市民サービスへの影響や財政負担に備え、緊急性の低い公共工事の着工時期延期や平準化など、限られた財源の効率的活用に向けた柔軟な検討が必要と考えるが、当局の見解を問う。</p> <p>イ 石油化学製品（ナフサ等）の不足・高騰による、公共施設（庁舎・小中学校等）の運営・管理（修繕資材や消耗品の調達等）への現状の影響と今後の見通しを問う。</p>
<p>2 在宅避難者への支援対策について</p>	<p>(1) 大規模災害時における本市の地域特性に応じた支援について以下2点を問う。</p> <p>ア 宅地開発の進展に伴う堅牢な住宅の増加という地域特性を踏まえた、現実的な避難計画の策定について当局の見解を問う。</p> <p>イ 市内人口に対する指定避難所への想定避難者数の割合と、在宅避難者に対する物資配給・情報伝達・生活再建支援等を示した具体的な対策計画の早期策定について当局の見解を問う。</p>
<p>3 ごみ処理・廃棄物対策について</p>	<p>(1) 最終処分場の確保の観点に立った、ごみの減量化・焼却処理品目の拡大について以下2点を問う。</p> <p>ア 定期的な受け入れ地の変更に伴う、最終処分場の今後の確実な処分枠の確保状況及び逼迫状況について当局の見解を問う。</p> <p>イ 最終処分場延命化のため、資源物分別徹底による「燃やさないごみ」の減量及び技術的に処理可能な品目の焼却処理について当局の見解を問う。</p>

<p>4 子育て支援策について</p>	<p>(1) 幼稚園・保育園に通園する配慮を要するこどもたちへの支援について以下2点について問う。</p> <p>ア 本市の幼稚園・保育園に通園する、特別な配慮や発達支援等を要するこどもたちの現状と今後の課題について問う。</p> <p>イ 園現場における受け入れ体制の整備や加配教職員及び保育士の確保、専門機関との連携強化など、適切な保育・教育環境を保障するための具体的な施策の推進並びに関連する担当課の役割及び今後の取組について当局の見解を問う。</p>
---------------------	---

質問事項	要 旨
<p>1 教育現場における諸課題について</p>	<p>(1) 本年3月17日にリニューアル工事中の江戸川台小学校を見学した際、教室内に電子黒板等の最新機器が導入されている一方で、児童が使用している机や椅子等の各種備品が著しく劣化している現状を目の当たりにした。このことを踏まえ以下2点を問う。</p> <p>ア 本市の各小中学校における机や椅子の更新時期について、どのような基準が設けられているのか。</p> <p>イ 本市では、つくばエクスプレス開通以前からある小中学校と、開通後に新設された小中学校との間に、校舎はもとより教室内の備品等にも一定の隔たりが生じているものと捉えている。そこで、予算配分等の配慮が必要と捉えているが、備品購入に要する経費について、これまでどのような基準を設けた上で、各小中学校への予算配分がなされてきたのか。</p> <p>(2) 学校給食で提供される牛乳について、飲み方や飲み終わった後の牛乳パックの洗浄方法に関し、一部の保護者から改善を求める声が挙がっている。そこで、以下2点について問う。</p> <p>ア 牛乳の飲み方について、牛乳パックからコップに移して飲むことを推奨する学校がある一方で、牛乳パックに直接、口を付けて飲む学校があると仄聞している。このような差異が生じている現状について、当局はどのように捉えているのか。</p> <p>イ 飲み終わった後の牛乳パックの洗浄方法についても、学校によって差異が生じており、一部の学校では給食係がクラス全員分の牛乳パックを洗浄していると仄聞している。各種感染症等のリスクを回避するとの観点から、このような洗浄方法は早急に改善すべきと考えるが、当局の見解を問う。</p>

<p>2 災害発生時における 要配慮者への支援策に ついて</p>	<p>(1) 本市においては令和6年度より個別避難計画の作成に本格的に着手し、大規模災害等が発生した際の配慮が必要な市民の把握や、具体的な支援の整備が進められているが、このことを踏まえ以下2点を問う。</p> <p>ア 現時点における本市の個別避難計画の進捗状況はどのようになっているのか。また、作成する中で浮き彫りとなった課題や今後の方針について、当局はどのように捉えているのか。</p> <p>イ いつ発生するか分からない大規模災害への備えとして、個別避難計画の作成と併せて、要配慮者を対象とした避難訓練を実施することも極めて重要であると考えている。そこで、当事者が参加した避難訓練のこれまでの実施状況と今後の方針について、当局はどのように考えているのか。</p> <p>(2) 近年、一部の自治体では妊産婦や乳幼児に配慮した専用避難所を設けており、令和6年1月に発生した能登半島地震においても、石川県輪島市で市内に設置した11カ所の福祉避難所のうち、2カ所を母子専用避難所として開設している。避難所生活を余儀なくされる環境下にあっても、授乳や乳幼児の夜泣き等に関する精神的な負担を少しでも軽減するため、本市においても妊産婦や乳幼児に配慮した避難所の運営について検討すべきと考えるが、当局の見解を問う。</p>
---	---

質問事項	要 旨
<p>1 流山市の下水道事業について</p>	<p>(1) ナフサ関連資材の価格高騰や調達困難な状況が一部報道などで聞かれる。本市の下水道工事への影響について問う。</p> <p>ア 福岡県飯塚市ではナフサを利用した水道管の価格高騰と、一部品薄状態になった影響から更新工事において入札中止が発生したと報道があった。本市でも資材の価格高騰や調達困難による工事への影響はあるのか。</p> <p>イ 価格変動による今年度の予算計画への影響をどのように考えているのか。また下水道ストックマネジメント計画への影響が懸念されるが当局はどのように考えるか。</p> <p>(2) 現在、パブリックコメントの手続きが行われている流山市下水道使用料の改定案について、また改定に関連する計画策定手順について以下問う。</p> <p>ア 平成17年度以降、実質的な下水道使用料の改定が行われなかった理由は何か。</p> <p>イ 今回の下水道使用料改定に向け、下水道だけでも「流山市下水道ビジョン」と「流山市下水道事業経営戦略」の2計画を並行して進行管理し、その策定や改訂に当たっては上下水道事業運営審議会もそれぞれ開催することについて、流山市上下水道局と審議会への負担などを考えると計画時期の統一など合理化を検討すべきと考えるが当局の見解を問う。</p>
<p>2 障害者手帳のカード化と、割引サービスの利便性向上について</p>	<p>(1) 国が2019年に障害者手帳のカード形式での交付を認めて以降、いくつかの自治体ではすでに対応が行われ、希望に応じてカード形式での交付が可能となっている。本市においても、当事者のニーズを反映した交付形態への転換が必要と考える。また、より一層の利便性向上に向けて障害者手帳の提示がなくとも各種対象割引サービスが利用できるような先進事例を研究し導入を検討すべきと考える。そこで以下2点について問う。</p> <p>ア 従来の紙製の手帳は「文字の磨耗やにじみで識別しにくくなる」「水濡れに弱く、破損しやすい」といった構造的な弱点があり、再発行の手間やコストも無視できない。耐久性に優れ、携帯しやすいカード形式への移行は、当事者の外出促進にも寄与するものであると考えるが、当局の見解を問う。</p> <p>イ 群馬県前橋市や長野県松本市などの先進自治体では、障害者手帳などの提示がなくともマイナンバーと交通系ICカードを連携し、各種割引サービスをスムーズに受けられるシステムを導入している。本市でも導入の可能性について検討・研究してはどうか。</p>

<p>3 安心安全な学校環境の構築について</p>	<p>(1) 近年報道されているような学校内で発生する様々な事件やトラブルから子どもや教職員を守るために、市として何らかの対策を講ずるべきと考えるが、以下3点について当局の見解を問う。</p> <p>ア 各地で児童生徒や教職員の安心安全が脅かされる学校侵入事件が報道されているが、本市ではどのような対策を講じているのか。また、今後新たに講じる対策などはあるのか。</p> <p>イ 学校で起きる暴力行為やいじめが、動画などで記録されることにより関連児童生徒の証言ではなく、映像証拠としてその行為の詳細が明らかになる事案が各地で発生した。これまでは暴力行為やいじめに関する証拠が不十分なことにより、事実関係を明らかにすることが難しく、対応が複雑化し、その結果、効果的な再発防止に繋げることが難しかったと感じている。</p> <p>そこで市として校舎内カメラなどを設置し、児童生徒の問題行為やいじめの未然防止と事案発生時の証拠記録としての活用を検討すべきと考えるがどうか。</p> <p>ウ 教職員の盗撮グループや性暴力など、全国各地で教職員による不祥事が問題になっている。学校内における盗撮などの犯罪行為に対する抑止力としての校舎内カメラの設置や、教職員への研修のより一層の強化が必要と考えるが、当局の今後の対策について問う。</p>
<p>4 フリースクール助成について</p>	<p>(1) 令和8年度流山市一般会計予算において、不登校児童生徒支援事業にフリースクール利用者支援補助金事業費が新たに計上された。その後、令和8年6月現在では開始されていないと思われるが、現在の進捗と今後の展望について以下3点を問う。</p> <p>ア 現在の状況と、今後のスケジュールについて</p> <p>イ 施行時期が遅れた場合の対象者への補助金額の影響について</p> <p>ウ 現時点で想定している補助対象となり得る利用施設の条件や補助対象者の要件を問う。</p>

質問事項	要 旨
<p>1 障がい者及び障がい児支援のサービス資源について</p>	<p>(1) 流山市は人口増加率6年連続全国1位という急成長を遂げる中、年少人口及び現役世代の流入が著しく、障害児通所給付費は平成30年度と令和4年度を比較すると242.7%と著しく伸び、金額の差では約9億1,033万円増となるなど、障害福祉ニーズが爆発的に拡大している。果たしてニーズの拡大に対して、サービス資源は十分か、以下に問う。</p> <p>ア グループホーム、短期入所、日中一時支援について、本市の現状とその課題はどうか。</p> <p>イ 医療的ケア児・重症心身障害児者への受入施設について、令和6年策定の第3期流山市障害児福祉計画では、主に重症心身障害児支援の児童発達支援事業所・放課後等デイサービスをそれぞれ1箇所確保する目標が掲げられた。現在の進捗状況はどうか。</p> <p>ウ 通学・送迎の保護者負担について、特に医療的ケア児・重症心身障害児・強度行動障害児の場合、看護師同乗や車椅子・吸引器対応車両が必要等の理由から、結果的に保護者（多くは母親）が自家用車で送迎せざるを得ないケースが多発している。医療的ケア児・重症心身障害児の通学送迎・通所送迎の実態をどのように把握しているか。</p> <p>エ 相談支援体制について、人口増・利用者増の速度に体制が追いついているのか。</p>

<p>2 キックマン アリーナの多様な活用について</p>	<p>(1) キックマン アリーナ（流山市民総合体育館）は、優れた設備を誇る本市の拠点施設であり、市民のスポーツ活動に重要な役割を果たしている。しかし、現在はスポーツ利用が最優先されており、文化団体による大規模な発表会、美術・手芸等の合同展示会等、「スポーツ以外」の利用申込みは制限がある。今後のキックマン アリーナの多様な利用について、以下の通り質問する。</p> <p>ア 現在、キックマン アリーナにおける「スポーツ以外の目的（文化活動・見本市・地域イベント等）」での利用実績および稼働率の現状をどのように把握しているか。</p> <p>イ 平日の空きコマ等の有効活用や、全天候型のインドアマルシェ、市民文化団体（美術・手芸・吹奏楽等）による大規模な合同発表・展示の場として、同アリーナの多様な利用を進めていく意図や方針はあるか。</p>
-------------------------------	--

質問事項	要 旨
<p>1 地域クラブ活動における各種安全対策について</p>	<p>(1) 本市では、今秋より休日の部活動の地域クラブ活動への移行が予定されている。この取組は、教員の働き方改革や生徒たちの多様な活動機会の確保につながるものと認識しているが、その一方で、活動の場が学校外へと広がることにより、各種安全性の確保がこれまで以上に重要になるものとする。そこで、以下2点について当局の見解を問う。</p> <p>ア 熱中症や事故等が発生した際の救急対応や保護者等への連絡体制について、どのような対応を考えているのか。また、学校や教職員、本事業の受託者それぞれの役割分担や責任の所在については、どのように考えているのか。</p> <p>イ 遠征や大会時の移動における安全性の確保はどのように図られていくのか。また、自転車による移動の際の安全対策については、どのように考えているのか。</p>
<p>2 本市の交通安全対策について</p>	<p>(1) 市道213号線、通称根方道路の安全対策について、森のロジスティクスパーク2丁目158番地の1の南東側の丁字路や、森のロジスティクスパーク3丁目261番地の北東側の丁字路のさらなる安全対策が必要と考えるが、当局は現状をどのように認識しているのか。また、これらの危険箇所への信号機や横断歩道の設置について、これまでどのような取組がなされてきたのか。</p> <p>(2) 都市計画道路3・3・2号新川南流山線と都市計画道路3・4・5号加市野谷線との交差点において、右折車両が対向車の交通量や速度の影響により、右折しづらい状況が見受けられる。当該交差点の交通状況や危険性について、当局はどのように認識しているのか。また、今後の安全対策に関する当局の見解を問う。</p>

質問事項	要 旨
<p>1 都市計画道路について</p>	<p>(1) 本市の都市計画道路の事業進捗率は70%程度と仄聞している。都市計画道路の多くが昭和30年代に計画決定されたものであるが、半世紀以上経過してもなお完成に至っていない道路が多く存在する。そこで以下を問う。</p> <p>ア 計画決定から半世紀以上経過してもなお完成に至っていない根本的な理由は何か。</p> <p>イ 計画決定から現在までの間、本市には急激な環境変化が訪れたが、現在の道路事情や様々な事情等を考慮すると計画そのものが非現実的である可能性があるのではないかと考えるが当局の見解はどうか。</p> <p>ウ こうのす台のコンビニエンスストアから森のまちエコセンターに通じる全長約1kmの道路も都市計画道路であるが、周辺住民の高齢化が進み、両側歩道整備の必要性が叫ばれている。当局は当該道路について直近5年間ではどのようなアクションを起こしてきたのか。そして完成に向けて今年度以降どのような見通し、目標を持っているのか。</p>
<p>2 学校給食について</p>	<p>(1) 江戸川台小学校の保護者から、子どもたちが学校から帰って来た際の第一声が「お腹すいた」と言われることが多く、給食の量が少ないのではないかと声を頂いた。そこで以下を問う。</p> <p>ア 給食の量は、学校給食法に基づく学校給食実施基準に従い、一人当たりの量を提供している認識であるが、その認識で間違いはないか。また市内全校の給食は当該基準が厳守されていると考えて良いか。</p> <p>イ 江戸川台小学校に限らず、同様な声を令和8年度中に学校または市教育委員会が受け付けた事例はあるか。</p> <p>ウ おかわり等の余剰分の量に変化はないか。</p>

